



Interview

界面評価装置で65年の実績 顧客目線で課題解決をサポート

協和界面科学株
専務取締役 亀井 潮氏に聞く

沿革は？

当社は1947年に「共和科学精機製作所」として創業し、当初は企業や大学などに向けて、ピーカーやフラスコなどの実験器具や備品の販売

を行っていました。あるとき顧客から「濡れ性を測る装置はないか」と聞かれ、探し回ったものが見つからず、ついには自分たちで作出すことを決めました。そして1957年、表面張力計を独自の開発しました。また、1960年に接触角計、1974年には摩擦計を開発しました。この3製品は、日本分析機器工業会の「分析機器・科学機器遺産」に認定されており、その後改良を重ねながら

貴社の強みは？

当社は、界面現象に関する測定装置の専門メーカーとして長年培ってきたノウハウがあります。なぜかというデータが出るのか、どうすれば改善できるのかといった、装置を使う中で生じた、疑問や相談にもお答えできます。ただ製品を売るだけでなく、顧客と一緒に課題解決を考えていく姿勢、そしてそこに確かな知識と経験がある

からこそ、当社を選んでいただけているのだと思います。また、ほとんどの製品を自社で作っているため、修理を自社で行える点も強みだと言えます。

粘着関連では、粘着テープやフィルムなどの剥離解析装置を販売しています。JISになっている90度や180度剥離だけでなく、1〜180度の範囲で自由に角度を設定でき、高速での剥離も可能なため、多様な条件を再現できます。操作が簡単で取り扱いやすい点も特徴の一つです。

日本接着学会の粘着研究会で実施されている産学協同研究にも参加しており、同装置をはじめとする評価技術で貢献しています。

最近のトピックは？

2019年1月に、技術部内に受託測定課を新設しました。装置の導入は難しいが、測定はしたいというニーズが多くあり、専門の課を設置することで、受託測定で収益を上げる新たな事業として確立させることが狙いです。

同課には若手社員を多く配置しており、実際に装置を使って計測し、製品への理解を深めてもらう、社員教育としての側面もあります。もちろん上司の確認は入りませんが、自分の仕事でレポートとして目に見える形で顧客に提出されることにより、若手社員たちもやりがいを感じてくれているようです。事業規模も既に2倍以上に成長しており、社員教育と売上の両方に貢献する事業に育っていくことを期待しています。

従業員のビジネスパートナーだと考えています。経営者と従業員、どちらの力が欠けていても会社は成長できません。従業員はビジネスパートナーだと考えています。経営者と従業員、どちらの力が欠けていても会社は成長できません。

仕事のポリシーは？

従業員はビジネスパートナーだと考えています。経営者と従業員、どちらの力が欠けていても会社は成長できません。